

家具の使い方に2面性を持たせ、平常時と災害時で用途が変化する空間を提案する。対象とする空間は交流スペース。この空間の特徴は普段は地域住民が集まりコミュニティの場として利用する一方で、災害時には避難所へ行かず自宅で避難する人を対象とした避難の拠点へと変化する。提案する家具として、初めに「はこ」「いた」「もとい」の3つのパーツを作成する。これらを状況に合わせてそれぞれ組み合わせることによって違う用途のものへと変化する。例えば、平常時には椅子やテーブルとして利用しながら、災害時にはそれらを分解・組み合わせることであかりや大テーブル、炊き出し用のかまどとして使うことができる。提案する空間には他にも薪ストーブに利用する薪をディスプレイとして見せる工夫や、かまどの位置を固定できる車輪止めなどを制作した。普段から利用しているものを姿を変えて災害時にも使うことで、地域住民が普段から防災への意識を高めることや、被災した際にも被災者の安心につながることを期待する。